

令和7年度 学校経営計画書

学 校 名 三次市立青河小学校

学校長名 谷 川 佳 万

I 学校の状況

学 級 数	5学級	児 童 数	16人	教 職 員 数	7人
メールアドレス		E-mail:aoga-e@school.miyoshi.hiroshima.jp			
ホームページアドレス		URL:http://www.aoga-e.hiroshima-c.ed.jp/			

II 学校教育目標

「ふるさとを愛し、高い志をもつ児童の育成」

【めざす児童像】

- あきらめない心をもつ児童
- おおきな挑戦をする児童
- かんがえぬく力をもつ児童

【めざす学校像】

- 一人一人が輝く学校
- 主体性を育て伸ばす学校
- 信頼される学校

III ミッション・ビジョン

【ミッション】（本校の使命・存在意義）

ふるさと青河から学び、将来への目標をもち、達成に向け前進する「あおが結芽人」の育成

【ビジョン】（本校の将来像）

地域の「文化・教育活動」の拠点として、保護者・地域の皆様から愛され、感動を与える学校

IV 重点事項(努力点)

1 特に育成する資質・能力

- | | |
|----------|---------------------------|
| ○思考力・判断力 | 「筋道を立てて考える力」、「情報を整理する力」 |
| ○表現力 | 「伝える力」（理由をつけて、レベルに合わせた声で） |
| ○主体性 | 「自ら考え、選択し、行動する力」、「協働する力」 |
| ○自らへの自信 | 「自分の良さ・成長を感じ、意欲を高める力」 |

2 特に努力する事項

- ① 各教科における基礎・基本の学力の定着と表現力を伸長させる。（知）
- ② 多様な体験活動を通して、主体性を高め豊かな心を育てる。（徳）
- ③ 健康の増進と生活習慣・体力・運動能力の向上に取り組む。（体）
- ④ コミュニティ・スクールとして、地域・保護者と一体となった学習を推進する。（地域・保護者）
- ⑤ 小中一貫教育の推進組織の活性化を図り、具体的な取組を充実する。（川地中学校区）

V 中心価値・行動規範

- ① 子どもに対する教育的愛情を高め、授業改善及び指導力の向上に努める。
- ② 公務員としての誇りをもち、使命と責任を自覚し、公正で不祥事を許さぬ風土をつくる。
- ③ お互いを思いやり、協働することを通して職場の心理的安全性を高める。

VI 現状分析

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因) 【地域】 ・豊かな自然・伝統的文化 ・自主・自律・創造性 ・多大な支援、協力体制 ・豊富な人材 ・コミュニティセンター、放課後子ども教室に隣接 【市教委】 ・小規模校の運営に理解 ・施設面での多大な支援 【県教委】 ・地域一体型のよさに理解 【国】 ・ブルーリバー等の活動を評価 ・総務省と連携	S (強み) 【学校】 ・職員間の綿密な連携・支え合う意識・協働的な取組 ・児童個々に対するきめ細かな取組 ・保護者・地域との深い信頼関係(願いに応えようとする意識・行動) ・情報の共有化と対応力 【児童生徒】 ・明るく素直 ・学びの習慣(間接指導) ・規範意識をもった行動 ・多くの異年齢交流機会 【保護者】 ・自主的なPTA活動 ・地域活動に積極的に参加 ・子育てへの積極的支援環境 ・充実した地域の協力支援体制	内部環境	支援的要因と強みを生かした活動・取組 ・複式小規模校、家庭と連携した個に応じた支援と指導で、学力向上及び生活健康面をサポートする取組を行う。 ・異年齢・異世代交流を通じて、多彩な人的交流体験から豊かな心、主体性、協働力を育む。 ・学校地域一体の行事等において、情報発信を行い、表現力の向上を図る。 ・環境保全等の活動を通し、「青河を愛する心」を育てる。
	T (阻害的要因) 【地域】 ・やや過保護的支援 ・地域リーダーの高齢化 ・過疎化の進行 ・地域行事が多い 【市教委・県教委・国】 ・出張機会の対応	W (弱み) 【学校】 ・教職員一人当たりの分掌(業務)が多い 【児童生徒】 ・主体性が育ちににくい ・多様な価値観を感じる場面不足 ・人間関係の固定化 ・地域外との交流場面が不足 【保護者】 ・家庭教育力の格差 ・PTA役員の負担増		弱みを克服し、阻害的要因と回避する解決策 ○地域合同行事において、「ねらい」を明確にした取組と振り返りを行う。 ・教科等との関連を具体化する。(カリマネ)。 ○さまざまな人とふれあう機会を意図的に仕組む。 ・他校(近隣校)との交流(ICT活用)を行う。 ○「セルフリカバリー(自己回復力)」を育てる。 ○自己決定の場をつくる。

2 重点課題

- ・思考力・判断力・表現力の向上(アウトプット【考える、かく、話す(理由をつけて)】、小中一貫教育)
- ・複式学級における指導法の研究(ICT機器の効果的な活用、主体的な学びを創る間接指導等)
- ・豊かな心・主体性の育成(主体的な異年齢世代間交流、文化体験活動、農業体験活動、環境保全学習、防災学習)【あおがホタルプログラム】
- ・多様な場の設定(見方、考え方、思考力・判断力・表現力を深める場、行動する場)

Ⅶ 中期経営目標及び短期経営目標表

	中期 経営目標	短期 経営目標	目標達成のため の方策	評価項目（評価方法）
確かな学力	基礎・基本の定着と、それを基盤とした思考力・判断力・表現力の育成を図る。	〈基礎・基本の確実な定着〉 基礎・基本の学力（読解力、計算力）の向上を図る。 （教務部）	「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、児童の基礎・基本の学力を定着させる。	・きらきらタイム及び個別指導を通して、「分かった。」「できた。」と感じた児童を 80%以上にする。（児童アンケート） ・国語科・算数科の単元末テストにおいて、「読解力、計算力」の正答率が全国平均値以上の児童を 80%以上にする。（テストの結果）
		〈思考力・判断力・表現力の向上〉 筋道立てて考え、情報を整理し、相手や目的に応じて豊かに表現する力を高める。 （教務部）	「かく力検定」や説明力向上パワーアップ集会を実施し、思考力・判断力・表現力の向上を図る。	・「かく力」検定やノート指導等を通して、かく力が向上したと実感できる児童の割合を 80%以上にする。
豊かな心	児童一人一人の自己有用感の高揚を図る。	〈自立・トライ〉 地域の自然活動や人々から色々なことを学び、表現する力を身に付け、地域を大切にする気持ちを高める。 （生徒指導部）	社会性を身に付けるために、挨拶をする意味について考え、指導を行い、挨拶の目標を立て、振り返りを行う。	・「自分から進んで挨拶をした。」と答えた児童の割合を 90%以上にする。（児童アンケート）
		「青河ほたるプログラム」を用いて、協働する力、自らへの自信を持たせるための指導・支援・評価を行う。	「縦割り班で活動する清掃・給食当番活動において、自ら進んで仕事ができるよう指導・支援・評価を行う。	・「あおがホタルプログラム」の活動を通して、「青河の良さを感じ、地域を大切にしたい。」と答えた児童を 90%以上にする。（児童アンケート）
		〈自立・トライ〉 「考え、進んで行動する力」（主体性）を育てる。 （生徒指導部）		・「縦割り班活動の仕事ですすんで取り組んだ」と答えた児童を 90%以上にする。（児童アンケート）
健やかな体	たくましく生きるための体力を育成する。	〈体力・耐力の向上〉 目標をもって継続して取り組み、体力を向上させる児童を育てる。 （生徒指導部）	全校児童の課題である走力の向上に重点を置いた指導を体力アップ朝会や体育や全校体育を通して行う。	・体育の授業や全校体育の授業で走力を上げる運動と取り組み、学期始めより学期終わりの 50mのタイムが上がった児童を 70%以上にする。（50m走の計測結果） ・「体力アップチャレンジカード」「体力パワーアップ朝会」を通じた体力づくりの効果を感じている児童を 90%以上にする。（児童アンケート）
信頼される学校	学校信頼度の向上を図り、学校力の充実を図る。	〈特色ある取組〉 信頼され、開かれた学校づくりに向けた連携と情報発信を行う。 （総務部）	学校教育目標及び小中一貫教育目標の達成に向けた取組と発表を行い、児童生徒の変容の姿を発信し、地域や保護者との連携を深める。	・児童発表の場（アウトプット）を学期 1 回以上つくり、それに対する評価を行う。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、家庭連携や子どもへの対応を適切に行っています。」の項目を 80%以上にする。
		〈組織力の向上〉 働き方改革の意義を踏まえた取組の推進と協働する学校体制を確立する。 （総務部）	学校教育目標や小中一貫教育目標の達成に向け、組織力を向上させる。	・職員アンケートで「他の職員と協働して仕事をすすめ、支え合うチームづくりに努めている。」「『働き方改革』を意識しながら仕事をしている。」と答える職員を 85%以上にする。